

2019 年度・芸術工学実習(D)4 後半 (情報環境デザイン学科)

■ テーマ

共通課題：「消える」

■ 参加教員

学科所属全教員

■ スケジュール

- 第1週：11/21 ガイダンス、課題について [M101]
第2週：11/28 学生の発表1 (全員, 2分) (15点) [M101] (*2)
第3週：12/05 実作業・相談 [M101]
第4週：12/12 学生の発表2 (2グループに分れて(*1), 3分) (20点)
第5週：12/19 実作業・相談 [M101]
第6週：01/09 学生の発表3 (2グループに分れて(*1), 3分) (20点) (*3)
第7週：01/16 実作業・相談 [M101]
第8週：01/23 講評会 (全員, 3分) (45点) [M101]

(*1) グループ分け・集合場所

【教員グループ】

グループA：栗原、小鷹、埴、横山

グループB：大坪、作間、中川、水野

	第4週(12/12)	第6週(01/09)
学籍番号奇数	グループA [M101]	グループB [セミナールーム]
学籍番号偶数	グループB [セミナールーム]	グループA [M101]

(*2) 11/28の発表では、発表用の資料としてA4用紙1枚を書画カメラで映してプレゼンテーションを行うこととする。資料の作成については裏面を参照のこと。

(*3) 01/09の発表では、制作物のプロトタイプの呈示を条件とし、これを評価の基準とする。

■ 注意事項

- ・ 実作業・相談の回は、最低一人の教員への相談を行うことで出席とみなされます(教員の側で名簿のチェックを行います)。
- ・ 病欠の場合は、事後に診断書を提出してください。
- ・ 授業に関する質問や診断書の提出は埴(hanawa@sda.nagoya-cu.ac.jp)まで

学生の発表 1 発表用の資料について

1. 発表資料の要件

- 原則として A4(横使い)1 枚にまとめること。
- ワードソフトなどを用いて電子的に作成すること。手書きは不可とする。
- 図表は、手描き以外の方法では作成が難しい場合(例えばドローイングなど)を除いて、電子的に作成すること。
- 20pt 以上の可読性が高いフォントを使用すること。
- 可読性の高い配色にすること。以下は、論外な配色の典型的な例である。

例) ダメな例 1、ダメな例 2、**ダメな例 3**

2. その他

- 必要に応じて、書画カメラに映せる補助資料(例えばモック、タブレットなど)を使用してもよい。